

令和6年度 3月号



ふようだより

台東区立富士幼稚園
園長 足立 祐子
台東区浅草 4-48-18
電話 3874-2460
fuji-yo@city.taito.tokyo.jp



本物に出会う経験

園長 足立 祐子

あっという間に3月！今年度最後の月となりました。各学級をのぞいてみると、落ち着いて、また、楽しんで活動に取り組む姿が見られ、一人一人の大きな成長の姿が随所に見られます。

今年度、富士幼稚園では、とうきょうすくわくプログラムの一環として、「実るを見つめる」というテーマで、栽培活動を中心とした探究活動に取り組んでまいりました。幼児期は具体的な実体験を通して、様々な試しをし、確かめをし、認識をしていきます。そこには、テレビで見たり、図鑑で見たりしたこととは違う感情の揺れ動きが伴います。「すごい！」「おもしろい！」「むずかしいなあ・・・」「どうして？」「できた！うれしい！」などです。この躍動的な気持ちや感動の体験が、意欲の高まりや更なる興味につながる力になっていくのでしょうか。

大きな、小さな、収穫

今年度の活動のひとつに、バケツ稲の栽培体験がありました。半年かけて65個のバケツで育てた“私たちのお米”です。2学期に5歳児で「もみずり体験」をしました。たくさんできた様で喜んでいましたが、実際にすり鉢で搗ってもみを吹いて飛ばし、残った玄米を見ると実にほんの少し・・・。「え、こんなにちょっと？」「あんなに、お世話をしたのに」と驚く程でした。それでも子供たちにとっては自慢のお米です。精米をして、全園児でカレーパーティーをしました。思い返せば苗植えの際は、稲の生育環境に良い土の作り方から指導を受けました。土の配分を聞き実際に配合し、泥だらけで混ぜ合わせます。あの時の一人一人の歓声や笑顔、「こんなにドロドロの中で育つの？」という素朴な疑問がいっぱいでした。実際に育てていた半年の間は、水切れをしないようにと気を配ったり、伸びていく穂を見て喜んだり、どの子も関心を寄せ世話をしていました。刈り入れの際には、指導をしていただいた方々の話を聞きつつ、道具の使い方や干し方を知り、もみずりの際には一粒の大切さを実感しました。今回は台東区の姉妹都市「大崎市」の職員の方にご指導いただき、稲作り体験をしましたが、やはり「本物に出会う」ということは大切だと実感しました。今までも、教員が本を読みながら園児に指導をしてきましたが、また違う経験が出来たと思います。“本物”とは言っても、やはりバケツですし、農家の方のご指導ではありません。「田んぼがあったら、」「もっと日当たりが良かったら、」「たくさん苗を植えられたら、」「動物に食べられてしまわなかったら」という思いはあります。しかし、今の環境や条件で出来ることを工夫すれば収穫の量には関わらず、貴重な体験が出来ると感じました。もみずり以来、お米一粒を良く見るようになりました。「一体、お茶碗一杯にはお米が何粒あるんだろう？」「それを育てた人たちの労力はどれだけだったのだろう」と教員も学んだ体験でした。

小学校にもワクワクがいっぱい！

富士小学校との交流も、たくさん行っています。3学期は1年生との交流給食や、5年生との交流給食、3年生との交流活動などもありました。月組さんも「もうすぐ1年生」という気持ちが高まっています。

どの学年も、あと少しで進級、進学です。ドキドキ、ワクワクしながらも自信をもっていかれるよう、最後の1カ月を元気に過ごしましょう。

